大学生の関係性攻撃を規定するパーソナリティ要因の検討

ーサイコパシー傾向、反応的攻撃性、自己愛傾向との関連についてー

○濱口佳和

(筑波大学人間系)

キーワード： 関係性攻撃、大学生、サイコパシー、NPI、敵意

Examination on relationships between university students' relational aggression and personality factors

Yoshikazu Hamaguchi

(University of Tsukuba, Faculty of Human Sciences)

Key Words: Relational aggression, University students, Psychopathy, NPI, Hostility

目 的

関係性攻撃 (relational aggression) は、「仲間関係を操作することにより、他者に危害を加えることを意図した攻撃行動」と定義され、関係操作、噂の流布、社会的排除などの種類があるとされてきた (Crick & Grotpeter, 1995)。従来幼児から小・中学生を対象とした研究が多かったが、近年、大学生や職場における関係性攻撃に注目し、個人差測定尺度の構成と関連要因の検討が開始されている (藤原他, 2012; 濱口他, 2012)。本来関係性攻撃は互いに異質で多様な種類から構成されているが、従来は一つの下位尺度により数項目で測定されるにすぎなかった。しかし、濱口他 (2012) ならびに藤原他 (2012) は、関係拒否、操作、対恋人関係性攻撃、陰口の 4 下位尺度から成る多次元性関係性攻撃尺度 (大学生用) を作成し、信頼性と併存的妥当性を検討するとともに、因子ごとに性差や年代差が異なることを見出している。

本研究では、以上の関係性攻撃の多次元性に留意しつつ、大学生の関係性攻撃の人格的規定要因を検討することを目的とする。ここでは特に、関係性攻撃の反応的攻撃としての側面との関連が期待される敵意と怒り、主に関係性攻撃の能動的攻撃としての側面との関連が期待されるサイコパシー傾向、関係性攻撃の他者支配的で操作的側面との関連が期待される自己愛傾向を取り上げる。

方 法

A. 調査対象者: 東北、関東、関西の 6 大学の学生 404 名 (男 161, 女 242, 不明 1) を対象に授業時間の一部を割いて下記の項目が含まれた質問紙調査を集団状態で実施。

B. 調査内容: ① MRAS-U, 32 項目 (5 段階評定; 「関係拒否」11 項目, 「操作」12 項目, 「対恋人関係性攻撃」5 項目, 「陰口」4 項目)。② 自己愛性人格目録 (大石ら, 1987; 小塩, 1998) の「注目・賞賛欲求」8 項目, 「自己主張」9 項目 (5

件法)。③ Buss-Perry 攻撃性質問紙 (安藤他, 1999) の「短気」5 項目, 「敵意」7 項目 (5 件法)。④ 日本語版一次・二次性サイコパシー傾向尺度 (杉浦・佐藤, 2005) の「一次性的サイコパシー」15 項目, 「二次性サイコパシー」6 項目, 4 件法。

結 果

(1) 重回帰分析

独立変数に、性別 (男 1, 女 2), 自己愛性人格 (注目・賞賛欲求, 自己主張), 反応的攻撃性 (短気, 敵意), サイコパシー傾向 (一次・二次性), 関係性攻撃の各下位尺度を従属変数として、ステップワイズ法の重回帰分析を実施。

「関係拒否」には自己愛, 反応的攻撃性, サイコパシー傾向の全てが低いながらも正の関連を示した (β は .11 ~ .18)。「関係拒否」は無視をベースに、相手との相互作用や近接の可能性を低めるための行動を故意に行う傾向であるが、これは大学生の場合、注目獲得, 怒り・敵意の表出, 利己的で共感性が低く人を操作する傾向の表れ, 衝動性の表れなどと解釈できる。

「操作」は実利的な目標の達成や報復として、相手に関係性攻撃を加えるもので、これは女性より男性で多く、一次性的サイコパシーの傾向の強さ, 短気の高さによって規定されている (β は短気で .14, 一次性的サイコパシーで .34)。

「対恋人関係性攻撃」は、注目賞賛欲求の高さ, 短気, 一次性的サイコパシー傾向によって規定され (β はそれぞれ, .24, .15, .11), 特に注目賞賛欲求の高さが反映する行動であることが明らかにされた。

「陰口」は、注目賞賛欲求, 敵意, 二次性的サイコパシー (衝動性の高さ) によって規定されることが明らかにされた (β はそれぞれ .22, .32, .16)。

考 察

関係性攻撃には、一次性的サイコパシーと短気といった比較的共同性の高いパーソナリティ要因の関与がある一方、関係性攻撃の種類固有の影響要因もあることが示された。

引用文献

濱口佳和・戸田有一・金網知征・中田千絵 (2012). 関係性攻撃と心理社会的適応との関連 (11) — 多次元性関係性攻撃尺度 (大学生用) の因子構造と信頼性の検討 — 日本教育心理学会第 54 回総会発表論文集, 269.

15. 藤原健志・金網知征・戸田有一・中田千絵・濱口佳和 (2012). 関係性攻撃と心理社会的適応との関連 (12) 一次元性関係性攻撃尺度 (大学生用) の妥当性の検討 日本教育心理学会第 54 回総会発表論文集, 270.

本研究は日本学術振興会科研費補助金 (基盤研究 (B) 課題番号 22330187) の助成で行われた。

Table1 関係性攻撃 4 側面へのパーソナリティ要因の重回帰分析

	関係拒否	操 作	対恋人 RA	陰口
性 別		-.20 ***		
自己主張				
注目賞賛	.11 *		.24 ***	.22 ***
短気	.15 **	.14 **	.15 **	
敵意	.15 **			.32 ***
一次性的サイコパシー	.18 ***	.34 ***	.11 *	
二次性的サイコパシー	.15 **			.16 ***
R^2	.22 ***	.23 ***	.13 ***	.21 ***
*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$				